



～小中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第4号

学びのコンパス



事例9

小学校での実践例から……

論理的思考力を培う教科指導のヒント～主体的・対話的で深い学びを通して～

論理的思考力を培うことにより、子どもたちに「自分の思いや考えを筋道立てて相手に分かりやすく説明する力」が身に付きます。今回は、**論理的思考力を培う教科指導の在り方**について、**国語**（主に1・2年）及び**社会**（主に3～6年）の2教科で研究・実践している**岩倉北小学校**の取組を紹介します。

社会では

国語では

子どもたちの問題意識・課題意識を生む教材の工夫

子どもの問題意識

日本にある森林を調べて学習問題を作ろう
森林には天然林と人工林がある。天然林の数は減っているが人工林の数は増えている。
⇒誰かが森林を守る活動をしているのかもしれないね。



子どもの課題意識

しかけカードのつくり方
1年生が喜ぶ「おもちゃの秘伝書」を書こう！



問題意識
課題意識
を生む出会い

日本の森林はどのようにして守られているのかな？

どのように書いたら1年生は喜んでくれるのかな？

複数の資料を活用して行う問題解決

論理的に書かれた文章の読み取りと活用

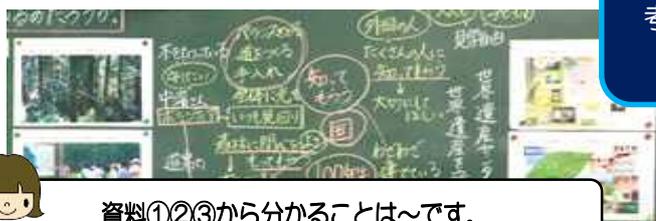
本時の問題を確認し、資料で調べ、集団解決する。

白神山地はどのようにして守られているのかな？

資料①…木を切っている中濱さん

資料②…白神山地で子どもたちを案内する中濱さん

資料③…白神山地世界遺産センターのリーフレット



資料①②③から分かることは～です。

分かったこと
考えたことを
整理

読み取り
教材文の構成を、付箋を使って分類し、分かりやすく伝えるための書き方の順番があることに気付く。

活用
読み取りでの気付きを活用しながら、自分の作品を作る。

～という順番で書くと分かりやすいんだね！

相手意識を
持ち発表

- ・伝えたいこと
- ・相手の意図

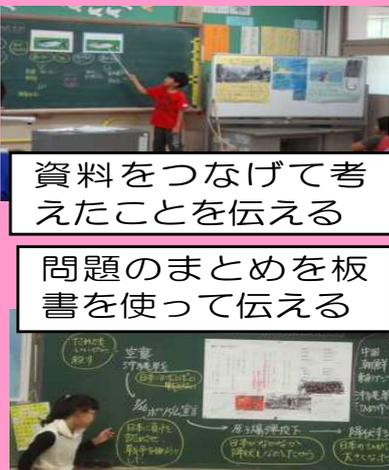
自分の思いや考えを筋道立てて相手に分かりやすく説明する力が身に付く

言語活動の成果物を発表する

資料をつなげて調べたことが分かりました。

資料をつなげて考えたことを伝える

問題のまとめを板書を使って伝える



おもちゃの秘伝書が工夫したところ。

主体的・対話的で深い学びを通して論理的思考力を培う

事例 10

小学校での実践例から……

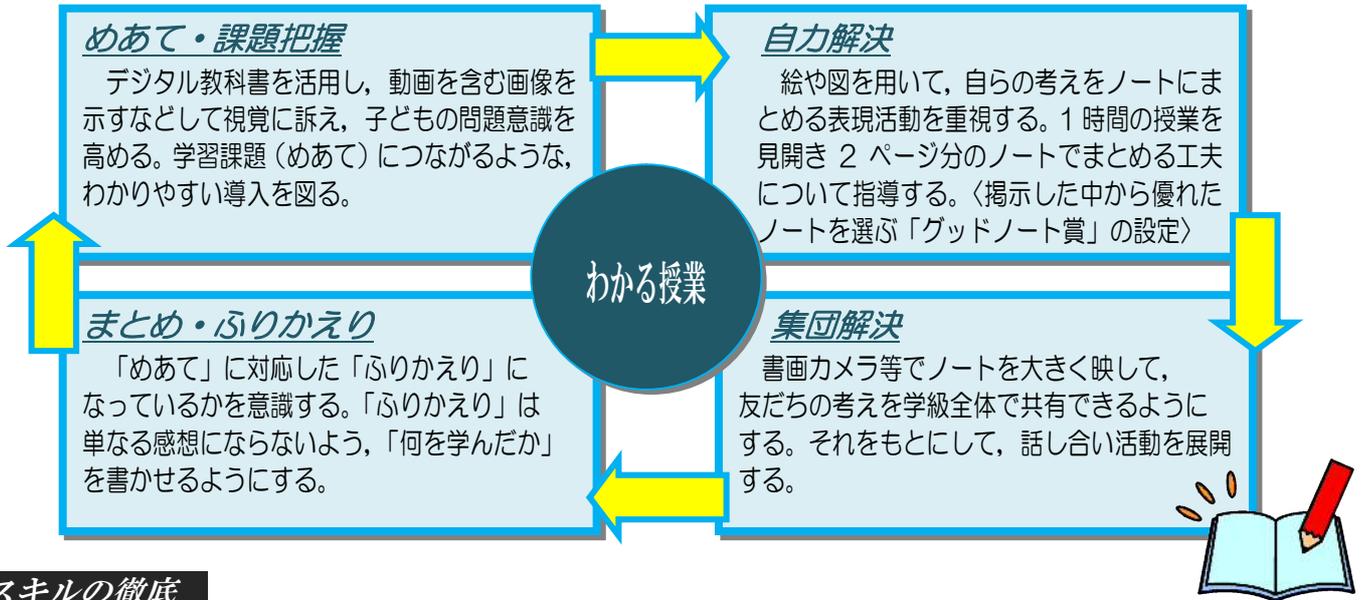
やればできる！



～「基礎・基本の積み重ね」で学ぶ意欲や自己肯定感を高める工夫～

確かな学力を培うことは、子どもたち一人一人が自らの将来展望を持つことにつながります。そのためには、**基礎・基本の徹底を図るための十分な学習量の確保**が必要です。わかる授業を構築する取組、家庭学習の充実を図る取組、自尊感情や地域への誇りを高める取組など、**多方面から学力向上へのアプローチ**を重ね、成果をあげている**池田小学校**の実践を紹介します。

わかる授業の構築



スキルの徹底

◆ 年間を通し、あらゆる学習時間を活用して、個別のプリント学習に取り組む。

帯時間の学習「寺子屋」で ・ 放課後の補習で ・ サマースクールで ・ 家庭学習で
学習プリントの活用 ・ 「問題データベース」の活用 ⇒ **達成表とシールで記録！**

年間一人 350枚～550枚のプリントを

既習/当該関連の単元を組み合わせ

ファイルが子どもの意欲や自信に

やればできる！

あきらめずに
取り組む子ども
〈学習量の増加〉



家庭の教育力を高めるために

◆ 自校版「家庭学習の手引き」・保護者との徹底した話し込み

- 基本的な生活習慣を確立する
- 家庭学習の習慣化を図る
- 家庭学習を行う環境を整える



学力向上に
つながる
主体的な学び



学習規律の
徹底は
全校体制で

子どもの
くらしを
把握する

教師の
温かい
関わり

自尊感情を
高める子ども
〈ふるさとの学習〉



環境教育を通して地域への誇りを

◆ 総合的な学習の時間「ふるさとの川 山科川を見つめて」

- 地域の環境と、自分たちの生活とを関連させながら学習に取り組む。
- 地域諸団体とも協力して環境美化に取り組む。
- 自己有用感や自己肯定感を高め、地域への誇りを持つことのできる学習の内容と方法で実施する。

主体的・対話的で深い学びを取り入れた小中連携の英語教育

次期学習指導要領では、「グローバル化に対応した英語教育改革」が盛り込まれています。京都市では、コミュニケーション力の向上を目指し、国の先行実施期間である平成30年度を前倒して、小学校3・4年生で英語活動を平成29年度より導入します。

松尾中学校ブロックでは、「小学校から『英語大好き!』の子どもを育てるため」に、9年間を通してコミュニケーション力を含めた英語力が向上するよう、既に新たな取組をスタートさせています。

小中一貫カリキュラムの作成と実践

小・中の英語担当教員からなる「英語教育部会」で小・中学校間の円滑な接続を目指した小中一貫カリキュラムを作成し、毎年改訂。小中の教員が協議を重ねる中で指導案や教材等を検討し、新しいアイデアも生まれ、授業内容がどんどん充実しています。

・・・小中一貫カリキュラムの中で・・・

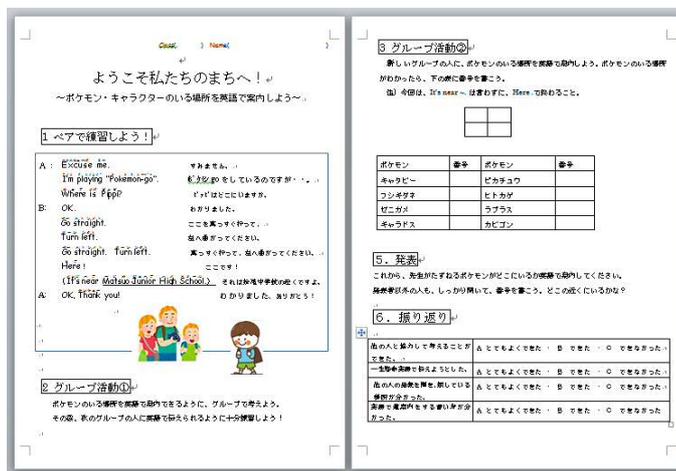
◆中学英語教員と小学校担任の連携強化を目指して

中学校との円滑な接続をねらいとして、小学校担任が主体的に授業づくりを行うため、中学校の英語科教員と共にT・T授業を実施するなど工夫をしています。

◆小学校外国語活動の充実

秋の松尾小・嵐山東小での研究授業では、「英語で道案内をする」というテーマで、流行のゲームキャラクターを探している外国人観光客に、見つかる場所までの行き方を英語で説明する、というユニークな課題を設定。シグソー法(※)の要素を取り入れた活動の中で、子どもたちの真剣な説明ぶりが印象的でした。

(※) まず、第1段階で、道案内で探すキャラクターを各班に割り当て、英語で説明する練習をみんなで協力して行う。第2段階では、班を分解して新たな班を作り、自分以外の人に、自分だけが知っているキャラクターの情報を伝え、それぞれのキャラクターの知識を持ったうえで、道案内をする。



◆英語を楽しむ「松中英語村」

中学校でも、英語に対する意欲を高める放課後の取組として、日本語を使わない「松中英語村」を年間6回開催。参加生徒は予め「パスポート」を受け取り、それを通行証として英語村にやってきます。英語教員とALTの先生とで、お茶会やハロウィーンパーティ、クリスマス会など、毎回多様な設定で英会話をしながら、歌ったり踊ったり味わったりと、楽しいひとときを満喫します。



カリキュラム連携を通じた小中一貫教育や、主体的・対話的で深い学びにより子どもたちの自主性と主体的に学習する力を育てましょう！

事例 12

学習内容の定着を図る工夫

～学習確認プログラム「予習シート」「復習シート」「問題データベース」の活用～

桃陵中学校では、学習確認プログラムの予習・復習シートや問題データベースを活用し、学習のねらいを定着させたり、終学活に「学習」の要素を取り入れた「終学習」を実施するなど、学校体制として学習内容を徹底して定着させる取組を実施しています。

・・・学習内容の定着を図るために・・・

◆「本時のねらい」⇒ 展開 ⇒ グループ活動 ⇒ 振り返り

『振り返り』では、**まとめ**・教員による定着の**見取り**・ドリルで**再定着**

本時の学習のまとめを行い、学習のねらいが習得できたか確認し、最後に「問題データベース」のドリル（5分間）を活用して、再定着を図っています。

◆ 終学活を「終学習」として活用し、学習の定着を図る

●学習確認プログラムの「予習シート」「復習シート」やドリル学習をする。

例えば、下表のように曜日で教科を決め、毎日少しずつ行うことで、問題に慣れるだけでなく、着実に定着させる。

(例)

曜日	月	火	水	木	金
教科	国語	社会	数学	理科	英語



◆ Study Time で「学び合い」の学習時間を設定

- 毎週木曜日の6校時（25分間）に実施
- 「予習シート」「復習シート」、終学習のまとめテスト、宿題の確認等を学習班で実施

・・・指導と評価の一体化・・・

確プロの確認テスト実施後、必ず5教科で分析（学習成績との相関関係含む）を実施。定着が不十分な問題については、教員同士で指導の振り返りを行い、授業での再指導を行う。

～ さらに効果的に学習内容を定着させるために ～

主体的な家庭学習を実施 【授業とリンクした家庭学習】【「調べ学習」から「探究的な学習」へ】

1 【授業とリンクした家庭学習】

- ・教科別に月に1～2回、**次時の授業内容**について自由にA4 1枚にまとめてくる。
- ・次時の授業で生徒に質問し、家庭学習（調べ学習）の内容を確認。
- ・すばらしい「調べ学習」（良いレイアウトや書き方・内容の工夫等）を表彰し、学年の廊下に掲示。他の生徒の見本にする。



2 【「調べ学習」から「探究的な学習」へ】

これから学ぶことに興味や関心をもち、見通しを持って粘り強く取り組む「調べ学習」ができるようになったら、自己の学習活動を振り返り、新たな問いを見出し深い学びを実現する「探究的な学習」につなげる。

★学びのコンパスに記載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★

光京都イントラ>●3 各課のページへ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～



学びのコンパス 平成29年3月・第4号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課

小中一貫教育・学校運営企画担当(Tel.222-3801)



ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！